

ふるさとの四季



同窓会本部

はじめに、秋工同窓会および静岡支部同窓会の物故者の皆様に、心より深く哀悼の意を申し上げます。この度、静岡支部同窓会【支部だより】に掲載戴きますこと、有難く感謝致します。

秋が深まる頃、55年の歳月を経て母校の学舎を目にした。ふと思い出したのは、入学して間もなく、学級担任の物理の授業中に突然「お前ら〜うるさい！！ 全県トップの成績で入学したというのに、なんだ〜このさま！！」と叫ぶや否やバシャーンと足元のバケツの水を、生徒の頭上に撒き散らしたのである。田舎者の私には衝撃的だった。翌年、ドクター先生は弘前高専の開校に合わせてご栄転された。

高校時代は往復5時間を通学するのが精一杯で、市内を巡る時間は無く、秋田市は殆ど無知に近い。卒業後は、滋賀県(7年間)→千葉県(1.5年間)→滋賀県(1.5年間)→静岡県(45年間)と転勤・移動した。

さて、秋田に移住後丸2年になる。メリハリのある四季、ダイヤモンドの輝く星、肌から秋田を強く感じるが、秋田駅前の様子は当時とは程遠い。人々の往来が少なく、車社会は全国同様だ。“新型コロナ”による自粛行動は、知人・友人との会話の機会を妨げている。会話も方言は解るが、背景は判らず深く入れない。

その状況下で、元秋工校長：西聰氏(静岡支部総会に同席、現秋田県立大学教授)とは一献を交え、静岡支部の想いに花を咲かせた。

また、黒澤校長先生には、ご多忙の中を学校案内して戴いた。流石に秋田県一の自慢の校舎は素晴ら

しい。市中で見かける秋工生からは優秀な雰囲気を感じる。これは確かなDNAの継承と表現したい。

ラグビー、陸上競技・駅伝、軟・硬式野球、サッカー、バレー等のスポーツ面の活躍は素晴らしく、学力も卒業生の進路がそれを証明している。

《 春 (3~5月) 》



角館武家屋敷

“啓蟄の日”が過ぎてから暫くして、閉鎖した世界から抜け出すように躍動感のある春が訪れる。心待ちにした大歓迎の時期であり、人々の表情も明るい。卒業シーズンが本格的となり、卒業式当日(3/2)には希望に溢れる多くの卒業生を目にする。

「卒業おめでとう」と、卒業生の一人にお祝いの言葉を掛けた。にっこりと微笑んだ表情には3年間の学舎生活を終えた達成感と、今後の希望と不安が入り混じっているようにも感じた。その姿は過去の自分と重複し、胸が張り裂けそうな感動と懐かしさを覚えた。

緑が周囲に顔を出し、白黒の地面がカラーに変化して、一層春の息吹を感じさせる。桜の開花は当時より1か月程早い。若者たちは春の装いで街を闊歩する。



菜の花 ロード